

事務事業名 **さんぶの森元気館健康づくり事業**

政策:04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策:03 健康づくりの推進

部名:保健福祉部

課名:健康支援課

基本事業:01 健康づくり活動の推進

計画年度	平成16年度 ~ 平成21年度		事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民 元気館利用者			市民の自主的な健康づくりを円滑に推進するため、健康づくり事業を実施します。また、実施するにあたり、受付業務や施設衛生管理業務など管理業務を行います。 なお、業務については委託にて実施。 健康づくり事業 ・プール、スタジオプログラムレッスン 週70本以上 ・コース型運動教室の開催 ・ジュニアファンク教室 ・子ども短期水泳教室を実施 管理業務 総合案内業務、プールトレーニング内の安全管理、衛生管理業務、清掃業務など				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			多くの市民が継続的に利用し、利用者の健康増進を図る。				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移							
区分	指標名称		単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	健康づくりプログラムレッスンの実施回数		回	3,573	3,710	-	-
活動指標							
成果指標	元気館登録者の実利用者数（市民の年間実利用者数累計）		人	9,346	8,960	-	-
成果指標	健康づくりプログラムレッスンの参加者数		人	49,918	50,587	-	-
事業費			千円	60,268	62,250	0	
			うち一般財源	千円	26,692	26,864	0
5 目的妥当性							
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い			介護予防及び医療費の削減を目的とし、市民の自主的な健康づくりを促すきっかけづくりの場として安価に利用できるようなサービスを提供するため、妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度							
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業			健康づくりをしている市民を増やすことに直結しており、貢献度は大きい。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討							
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他			全市民を対象とした事業のため、見直しできない。				
8 有効性（成果状況）							
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない			平成20年度に比べて、コース型教室の拡充により教室の参加者は増えているが、元気館全体の利用者は減少している。 不景気の影響もあり利用者が減少している。 魅力ある教室を開催することにより、利用者減少を防止する。				
9 有効性（成果向上余地）							
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し							
10 事業の再編成							
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない			蓮沼保健センターで類似の事業を実施しているが、地域が異なるため、即座に再編成できない。				
11 効率性（コスト削減の方法）							
ある ない			現在、施設使用料に含めている運動プログラムを有料化する等の手法が考えられる。 また、指定管理者制度を導入することにより、人件費等の削減効果が見込まれる。（目標：22年度導入）				